

村上典子医師とのインタビュー

子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス (HPV)の感染を予防する HPV ワクチンの積極的勧奨が再開されました。近年、子宮頸がんは増加の傾向にあり、患者数・死亡者数とも近年漸増傾向にあります。特に、若い世代での罹患の増加が問題視されており、HPV ワクチンの接種を早急に進めることは医療にとって重要な課題の一つです。しかし、SNS やインターネット上では、HPV ワクチン接種に伴う副反応について様々な情報に溢れ、不安を感じている方も多くいらっしゃると思います。

先日、当院の村上典子医師が HPV ワクチンについてのインタビューをお受けする機会がありました。多くの皆様にご覧いただけるようインタビューの内容を掲載いたしますので参考にいただければ幸いです。

Q:HPV ワクチンの経緯について教えてください

村上：HPV ワクチンは、平成 25 年度から定期接種となりましたが、副反応の疑いがある報告があり、それを受けて平成 25 年 6 月に HPV ワクチンの積極的勧奨を取りやめ、副反応の発生頻度などの解明のため調査が行われてきました。そして昨年、副反応の疑いと報告された症状と HPV ワクチンに直接的な関連は立証できないという結論が出ました。HPV ワクチンの

接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回るということが明らかになり、今回の HPV ワクチンの積極的勧奨の再開となりました。

Q：HPV（ヒトパピローマウイルス）感染症について教えてください

村上：ヒトパピローマウイルス(HPV)は子宮頸がん等を発症する原因となります。HPVは、100種類以上の遺伝子型があり、その中で、子宮頸がんを発症するリスクが最も高い遺伝子型は HPV 16、18 型で進行も早いことが分かっています。HPV の感染が長期間に及ぶと正常とは異なる細胞が形成される異形成や癌化が起こります。また、HPV6、11 型では性感染症である尖形コンジローマを発症し、低リスクではありますが注意が必要です。現在、承認されている HPV ワクチンは HPV 16、18 型を予防する 2 価と HPV 6、11、16、18 型を予防する 4 価の 2 種類です。また、HPV に感染し気づかぬうちに癌化が進み、妊娠をきっかけに子宮頸がんが発見されるケースもあり、20 歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受けていただきたいと思います。

Q:HPV ウイルスの効果はどの程度あるのでしょうか

村上：日本で承認されている 2 価、4 価の HPV ワクチンによって子宮頸がんの原因の 50～70%を防ぐことができます。海外で 9 つの型の HPV の感染を予防する 9 価の HPV ワクチンが承認されており、90%以上の子宮頸がんを予防すると言われて

います。日本でも 2020 年に 9 価の HPV ワクチンが承認されましたが、公費対象ではなく、自由診療のみでの任意接種となります。当院でもご希望があれば、9 価の HPV ワクチンの接種を行っています。

Q:HPV ワクチンの接種スケジュールを教えてください

村上：HPV ワクチンの公費接種が対象となるのは、小学校 6 年～高校 1 年生相当の女子です。また、キャッチアップ接種と言って積極的勧奨が中止されていた 8 年間に接種する機会を逃した「1997～2005 年度に生まれた方も公費での接種が可能になります。

2 価（サーバリックス）、4 価（ガーダシル）の HPV ワクチン共に 3 回の接種が必要です。

初回→2 ヶ月後→6 ヶ月後のタイミングで接種していただきます。個人差はありますが接種完了後、約 20～30 年間は抗体価が保たれ、予防効果が期待できます。

Q：HPV ワクチンの接種対象は女性のみでしょうか

村上：HPV ワクチンは男性も接種可能です。海外では男性の接種も進んでおり、それによって 2 つの大きなメリットがあります。1 つは尖形コンジローマの予防にもなること、もう一つはパートナーへの感染を防ぐためです。日本でも男性への接種が可能であり、当院でもご希望があれば接種可能です。

Q:HPV ワクチンの副反応はどの程度ありますか？

村上：当院でこれまで HPV ワクチンを接種した患者様に副反応が出たケースはありません。一般的には、HPV ワクチン接種後に接種部位の痛みや腫れ、赤みなどの副反応が起きることが多くあります。重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることは稀です。副反応とは別にワクチンに対する不安や緊張が大きい場合に一時的に脳への血流が減少する血管迷走神経反射が起き、失神することもあります。そのため、ワクチン接種後は15分は、クリニック内で待機し健康観察を行っていただきます。

Q:HPV ワクチンの接種を検討している方へメッセージがありましたらお願いいたします。

村上：子宮頸がんの95%以上は、HPVの感染が原因で性交渉の経験がある女性のうち50%~80%は、HPVに感染していると推計されます。しかし、感染に気づく自覚症状が起きることはないウイルスです。そして長い年月をかけゆっくりと細胞を壊し、異形成から癌へと進行します。ごく初期の早期がんまでに発見することができれば、子宮頸部円錐切除術によって癌細胞のみを切除し、その後も妊娠することは可能です。しかし、子宮頸部円錐切除術が流産・早産のリスクを高めるリスクがあることも事実です。また、進行がんになってしまうと将来の妊娠・出産を諦めざるを得ないばかりか、命を脅かすことになり、女性の人生に大きな影響を及ぼします。HPV ワクチンは癌化のリスクを減らすことができる優れたワクチンです。HPV ワ

クチン接種対象の女性の皆様には、積極的に接種を受けて欲しいと思います。もちろん接種に対しての不安もあると思いますので事前にご相談をしていただくことも可能です。当院では、皆様の質問に丁寧にお答えし、接種後のアフターフォローもしっかりと行っていきますのでお気軽に受診していただければと思います。